



**17 年度余市 i センター O P E N 致しました！**

4 月 23 日 G W 休暇を前に余市観光案内所としてデジタル機能を持たせ、ドライブ観光客への余市観光充実を図る目的でスタート致しました。広域観光案内システム「しりべし i ネット」へも引き続き参加していきます。



案内をさせて頂いたお客様から「ありがとう」と言われると、この仕事をして良かったと思います。全国各地の人たちとお話をさせて頂くのも、また、その地方の方言を生で聞けたりするのも、この仕事ならではの、でしょうね。とても楽しく仕事をさせて頂いております。学ばなければならない事は沢山残っていますが、常におもてなしの心を忘れずに、旅行者の皆様の良い思い出作りのきっかけをご提供できたらと思っています。

センターリーダー：玉山 義信

**GW (4/29~5/8) 余市 i センター利用者数**

2004 年 4/29 ~ 5/5 の 7 日間 1,117 名 (子供数含まず)

2005 年 4/29 ~ 5/8 の 10 日間 915 人 (子供数含まず)

低温、晴天日少もあり 3 日多い GW にもかかわらず昨年比 - 202 人という結果になりました。6 月後半週末より三桁の利用者数データとなっていますので天候の回復に期待です。

**2005 年 GW の反省と夏季多忙期に向けての課題**

・ i センター利用者年代傾向

30 代 40 代 20 代 50 代 60 代 (昨年 5,60 代 20 代 30 代 40 代)

・ お問い合わせ項目

観光 (希望メニューと許容時間での案内、積丹半島、羊蹄山麓)

食事 (安くて、近くて、お奨め、美味しい店の問い合わせ)

地図 (観光施設所在地、道路の詳しい地図)

観光 (余市の観光)

旬 (くだもの情報、海産物情報)

**しりべし i ネット・各地域だよりアクセス比較 (5/19) トップページ 485,009**

小樽市 31,252	<b>余市町 23,367</b>	岩内町 22,322	ニセコ町 20,347
積丹町 15,325	倶知安町 15,089	神恵内村 13,742	喜茂別町 12,158
赤井川村 11,535	黒松内町 10,353	共和町 10,037	真狩村 9,714
留寿都村 9,573	蘭越町 9,095	京極町 9,092	寿都町 9,059
島牧村 8,748	泊村 8,270	古平町 7,726	仁木町 7,397

平成 17 年 3 月 31 日しりべし i ネットシンポジウム

『今始まる！しりべしニューツーリズムとまちづくり』

基調講演:須田 寛氏(社)日本観光協会全国産業観光推進協議会 副会長

東海旅客鉄道株式会社 相談役

**参加感想：“先進国しりべし” ~須田 寛氏コメント~**

「しりべし i ネット」が成功したのは「わざとらしさがない」「自然体」という、「よそ行きの着物を着て観光をしてこなかった」ことが挙げられる。それが観光客から支持され、成功した要因だと考える。これからの観光は、こういった視点が重要である。

国際化対応については、外国の旅行雑誌などを見てみると、驚くほど日本の情報は正確に伝わっていない。東京や大阪などは、比較的新しい情報に更新されているが、例えば名古屋などは、あまり観光的魅力の少ないところである、といった記述がされていたりする。そう考えると、例えば、後志にある外国資本の会社などを通じたりしながら、あらゆるツールを使って、もっともっと PR していく必要があると考える。

観光というものは、文化事業だと考える。例えば、小樽運河のまわりの倉庫群は、その昔は誰も今のような観光施設にしようと考えてつくった訳ではない。倉庫といった非日常な空間を喫茶店やレストランのような空間にしたアイデアもさることながら、そのことを情報化することによって初めて観光施設として成功したのだといえる。こういったことを積み上げながら、地域内のあらゆるものを情報化し、どんどん発信していく。そして地域の文化を高めていく。それに伴って経済的にも発展する。すると、また文化的な施設が集積したり、そういったものに投資したりできるようになる。こういった視点でそれぞれの活動を続けてもらえば、必ず、より素晴らしい i ネットやシーニックになっていくと思う。小樽に限らず後志には、すばらしい資源があり、非常に大きな文化的、社会的な意義を持っている。

これらを引き起こすのが「しりべし i ネット」だと思う。地元の方が自分の意見で、ボランティアで、しかも大勢の方々がメンバーとなって地元から発信している。

**このような素晴らしいことをやっているのは、全国で大変少ない。**自治体がやっているところはあるが、住民ではないので、深いところまで行くわけにはいかない。自治体には、このような能力に限界があるが、住民だったらそれは自由にできる。そういう意味合いで、この「しりべし i ネット」が全国に発展するように、また全国の人々がネットを作っていくようになると考えられる。

つまり、**後志は大変な先進国である。**それをどのようにこれから広げていくか、地域でもっとたくさんの市民の方々にも参加していただくために、どう広げるかということに課題がある。**後志の取り組みを全国が注目しているのを忘れないでほしい。**

「しりべし i ネット」に自信と誇りを持って取り組んでほしい。「しりべし i ネット」の今後発展を期待している。

---

余市 i センター 電話 080-5582-2606

余市町商工観光課 電話 0135-21-2125

しりべし i ネット <http://www.shiribeshi-i.net/>